

西教寺報

南伝仏歴 2553(2009・平成 21) 年 8 月 1 日発行
 発行所 西教寺報編集局
 〒737-0051 呉市中央 7-7-13 西教寺蔵本通支坊

(号 外)

TEL 0823 (21) 2798 FAX 0823 (21) 2795
 E mail info@saikyoji.net
 郵便振替番号 01340-3-29117 宗教法人西教寺

ぼんどうろう 「盆灯籠」と とうば 「塔婆」

安芸の特有の習俗「盆灯籠」。火事になって危ないとか環境に悪いとかで、近年禁止する墓地も出てきました。代わりに、小さな木片に「南無阿弥陀仏」とお名号が書かれている「塔婆」と呼ばれる品物が出回るようになりました。これらについて、安芸教区（広島県の西半分約五百ヶ寺）としての見解が出ています（『見真』2004年8月）。要約すると、「塔婆」の原型である卒塔婆は、五輪塔を意匠化したものであり、本来真宗では用いない物です。また、塔婆ではなくただの木片だとしても、南無阿弥陀仏の六字名号（ご本尊）を放置して最後はゴミにするようなあり方は「勧められません」とあります。

また、「盆灯籠」については、その起源や宗教的意味に諸説ありますが、教区見解は「迎え火送り火」ではなく「お灯り」であり「意義（香・光・華というお供えの原則）に適合している」。ということです。

「迎え火」とは、年に一度、お盆に地獄の蓋が開いて、亡者がこの火をたよりに戻ってくるという考え方・習俗ですが、実はこれは仏さまの教えではありません。ですから真宗門徒が盆灯籠を「迎え火送り火」として立てるとすると大問題ですが、そうではなくて、お灯明

の意味で用いましょうということです。また、あとの処分や安全管理、名紙代わりにしているなどの事情を考慮して「代替え品を考案するのでも一案でしょう。」と書いてありました。今年も火の用心と後始末を宜しく願います。

ついでに申しますと、墓参りでも法事でも、私の合わす手が、亡き人と私との関係だけで成りたっていて、そこに仏法、仏さまが関係していない場合は、仏教の合掌、仏教徒の墓参りとは言えません。亡き人のおかげを思うのも、また自身の不孝を後悔したりするのも、また、絶えがたい独りぼっちのさびしさも、仏さまとともに受け止めるならば、また、仏法の鏡に映して味わうならば、きっとひと味違ったもの



のようになることでしょう。映画「おくりびと」の原作、青木新門さんは、「（仏さまを抜きにした）人間中心主義の癒しは、結局自己中心主義になる」と言われています。ご本山で、「お名号が刻んでない墓にお参りする際は「携帯用のご本尊を安置してお参り下さい（『仏事のイロハ』末本弘然著）」と指導されているのは、きっとこの自己中心の合掌にならないためなのでしょう。

この夏は、仏法とともに合掌いたしましょう。

御礼とご報告

宗祖七五〇会・広島別院会館再建の募財

過日にお願ひしました右募財につきまして、おかげをもちまして合計一、六九二万二五〇〇円のご喜捨を頂戴しました。目標額の一、七七七万円には達しませんでした。が、本山募財期間中は、西教寺門信徒から本山への永代経懇志（院号）を西教寺への割り当て金として換算することができると、それを加えて、なんとか西教寺としての責任を果たすことができました。お力添え、ご心配を賜りました皆さまに、心より御礼申し上げます。

現在、ようやくコンピューターへの入力を終了し、お扱い（記念品）の準備をしております。二種の募財のため、少々整理に手間取っておりますが、間もなくお手元にお扱いが届くことと思ひます。どうぞ今しばらくお待ち下さい。